Ⅱ　本時の学習（○／○）

１　ねらい ※身に付けさせたい資質･能力をもとに設定する。

２　展開

ICT活用の例

＜可視化＞＜共有＞＜焦点化＞＜試行錯誤＞＜思考の整理＞

＜データ活用＞＜データ蓄積＞＜主体的な学びの促進＞

＜基礎・基本の定着＞＜学習の個性化＞＜指導の個別化＞等

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 主な学習活動  ☆児童〔生徒〕の意識 | 指導上の留意点及び  支援･評価 | | | 時間 |
| １　めあてを明確に捉え、学習の見通しをもつ。  解決すること「なぜ、～か（だろう）」「どのように～か」など  解決の方法「～をして」｢～を通して｣「～を用いて」など  活動･テーマ（文末を）「～してみよう。」などのように記述する。  ※児童生徒が学習活動の見通しが明らかになり、本時のゴールの姿が明確に想起できるような言葉となるよう意識する。  ☆ええ、なんでだろう。  ☆今日は、○○について学習するんだな。  ☆調べてみたいな。  ☆この方法が使えそうだ。  〈めあて〉※ねらいをもとに設定する。 | ※児童生徒から○○のような　気付きや○○に関する疑問　を引き出し、既習事項を振　り返るなどしてめあてを設　定する。  ※本時の学習の見通しをもて　るよう、めあてを提示する。 | | | ５ |
| ２　本時の課題について個別で考え、ワークシー　トに記述する。  (できれば)  ＩＣＴの活用  について明記  する。  ☆こうすればできるんじゃないかな。  ☆○○が答えだな。  ☆理由は○○だ。  ３　考えたことを共有し、考えを深める。  ☆○○になるんだな。  ☆△△になる場合もあるんだ。  ☆でも、僕の考えは○○だ。△△という考えもあ　るんだ。  ☆Ａ君と考え方は同じだけど、理由が違うな。  ☆△△という理由もあるんだ。  ☆みんなの考えの共通する部分は○○だな。  文末表現は  ｢促す｣｢提示する｣  ｢想起する｣  ｢比較する｣｣  ｢問いかける｣  ｢称賛する｣　など  何を学んだか　「わかったこと」｢気付いたこと｣｢できるようになったこと｣「まだ、わからないこと」　など  どのように学んだか　「どのように解決したか」  ｢どうしたらできたのか｣　など  ※児童生徒の言葉で記述する。 | ※スケッチの代わりに写真を撮る。＜データ蓄積＞(生活科)  ※自己の課題を把握する場面で動画撮影機能を使い、自分の姿を客観的に捉えさせる。＜可視化＞(体育科)  ※△△についての考えを深め　られるよう、○○について考えている児童生徒を意図的に指名する。  ※全員で検討できるよう、○○についての賛否を他の児童生徒に問いかける。  　(広げる･つなげる・深める) | | | 30  (35) |
|  | 【評価項目】思  ～について○○を考え、表現している。  (発言、プリントの記述) |  |
|  |
| ４　本時のまとめをする。  ☆○○は△△だから□□になるんだな。 | ※児童生徒の言葉を生かして　まとめる。 | | | 10 |
| ５　めあてに沿って振り返る。  〈振り返りの姿〉  ☆△△だから、○○ということがわかった。（できるようになった。）  （例）  ・めあて、まとめが示されている  ・児童生徒の思考の跡が残っている  ・つながりや関係性が見える  ・児童生徒の考えに対する評価が示されている  ・思考や発想のヒントになる　など |  | | |
| ６　次時の予告を知る。 |  | | |

３　板書計画

※指導案例(道徳科、学級活動含む)は、吾妻教育事務所Ｗｅｂページに掲載しています。